

石川県伝統工芸品の紹介

現在、石川県として知られている地域は、数百年前から京都や江戸（現在の東京）の文化都市と肩を並べる工芸の中心地である。陶磁器、織物、漆器、金工、木工など、石川県の伝統工芸は盛んである。刀鍛冶や友禅など、日本各地で行われている工芸が石川県で独自の発展を遂げた。また、加賀象嵌など、この地域が発祥の地とされる技法もある。

石川県で行われている工芸の多くは、その芸術的・歴史的価値が認められ、国の重要無形文化財に指定されている。また、無形文化遺産に登録された伝統的な技法を守る名人である、工芸に関する重要無形文化財保持者の輩出も、人口比で日本一となっている。

現在、石川県を訪れると、過去の名作だけでなく、現代の職人たちが伝統的な技術を現代的な美意識に適合させるために新たな方法を模索している姿を見ることができる。美術館に展示されるような精巧な美術品から、九谷焼の飯碗や輪島塗の箸のような機能美を備えた日用品まで、現代の作品は多岐にわたる。茶道の銅鑪のように超伝統的なものもあれば、現代に新たな表現を見出した工芸品もある。例えば、かつて仏像に使われていたミクロン単位の薄さの金箔は、今ではソフトクリームの上に貼られたり、高級なフェイシャルトリートメントに使われたりしている。